



パレモ信条

- 一. 私達はお客様の声を大切にします
- 一. 私達は明るく楽しく前向きに主体性ある職場をつくります
- 一. 私達は魅力あふれるブランドを提案します
- 一. 私達は自らの努力で高い目標に果敢に挑戦します
- 一. 私達は仲間と感動を通して輝かしい明日を創造します

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日
登録番号 C0024

仕事と家庭の両立に配慮した取り組みを行なう愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

～ Doing it ～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



株式会社 パレモ

証券コード:2778



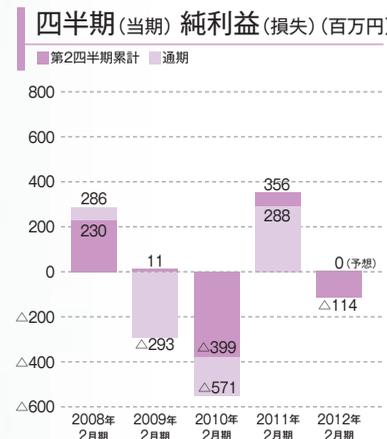
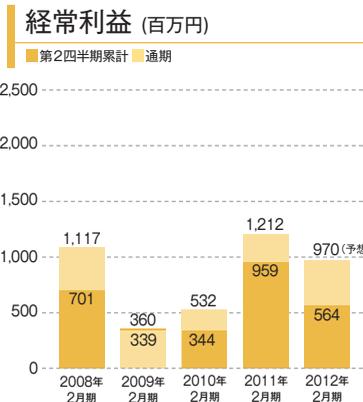
PAL [仲間] + EMOTION [感動]

PALEMO という社名は、「PAL(仲間)」と「EMOTION(感動)」の二つの言葉を合わせた造語であり、「感性豊かな仲間たちとともに人生、仕事の感動を味わう」という思いが込められています。

INDEX

- 株主の皆様へ 2
- トップインタビュー 3
- アパレル事業の概況 5
- 雑貨事業の概況 6
- 店舗の概況 7
- 四半期財務諸表 8
- 株式情報 9
- 会社情報 10

経営成績



株主の皆様へ

更なる収益力強化に向け、多核化ブランド戦略を推進します

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。また、このたびの東日本大震災により被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復興を心よりお祈りいたします。

さて、当社第27期第2四半期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第27期第2四半期におけるわが国経済は、東日本大震災により一時的に落ち込んだ購買意欲や自粛ムードの持ち直しの動きが見られたものの、欧米の財政問題を背景に円高の進行や電力供給不足問題などの影響もあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社が属する専門店業界におきましては、少子高齢化による市場変化ならびに新設商業施設の減少等、国内市場の成長性が懸念される中、外資系専門店の出店拡大もあり競合環境の激化、そして企業の優勝劣敗が進みました。

このような環境の中、当社は「主力事業の収益力強化」を基本としまして「都心、モール型出店強化」ならびに「新事業の着実な育成、拡大」に取り組みました。しかしながら、震災による既存店売上高の減収を新設店で補うことができず期初の計画を下回る結果となり、第2四半期は「増益」を果たしたものの、当第2四半期累計期間における決算は「減収減益」となりましたことを謹んでご報告申し上げます。

下半期におきましては、年間の収益確保に向けまして「主力事業の最強化」に注力して取り組んでまいります。それと同時に更なる収益力強化ならびに新たな成長を目指して「多核化ブランド戦略」の推進に努めてまいります。

今後も企業価値ならびに株主価値の向上に向け、役員をはじめ社員一同、専心努力してまいります。また、企業統治ならびに内部統制を重視しまして、企業の質的向上にも引き続き努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

指針

- 正しい経営
- 安定成長
- ローコスト経営
- 人財経営

代表取締役社長

小田保則





お客様を 私達を そして皆様を 「明るく楽しく前向きに」

当社に関わる全ての人達に、「明るく楽しく前向きに」なっていただきたい。
そのためには、いかなる時代や環境にあってもパレモらしさを忘れることなく、
活力ある風土を基盤にブランド力の強化に取り組んでまいります。

Q.1 当第2四半期累計期間の業績ならびに その要因についてお聞かせください。

●減収減益

既存店売上高前年同期比は、第1四半期84.8%、第2四半期は94.8%となり、当第2四半期累計期間としては89.8%となりました。営業費におきましては、引き続きローコスト経営に取り組んだ結果、前年同期比94.0%となりました。また今期の特殊要因として、資産除去債務会計基準の適用にともなう店舗撤去費用3億42百万円ならびに震災による損失91百万円を含む特別損失を5億22百万円計上したことによりまして当第2四半期累計期間は四半期純損失1億14百万円となりました。

東日本大震災におきましては、従業員が全員無事であったことが幸いであり、震災後は被災地区での当社従業員へのお見舞いならびに雇用の確保に注力させていただいたと同時に、売上の一部を義援金として被災地区に寄付させていただきました。また、震災当初109店舗の営業休業を余儀なくされるなど厳しい環境下になりましたが、全従業員で「不屈・連帯」をテーマに取り組んでまいりました。その取り組みにより、全社の結束力が高まったように思います。

当第2四半期累計期間の業績の要因としましては、既

存店の減収が最大の要因です。震災を機に華やかな消費が控えられ安定志向の消費マインドが主流となり、ファッション傾向が一時的に変化したことが特徴であり、その要因と思っています。アパレル事業の既存店の全体は減収となりましたが、好調なブランドもありました。これは一時の環境変化に惑わされることなく、自分の強さを磨き続けたブランドです。店舗での営業的なサービス力の強化とともに「顧客化」が推進されまして、これらの既存店売上は順調に推移いたしました。改めて、各々のブランドの本来の強さを磨き続けていくことの重要性を、この環境下で再認識いたしました。

雑貨事業における「Siebelet」「illusie300」「INCENSE」「木糸土」は各々好調に推移しました。各ブランドともに、ドメインの商品の最強化に向けて努力し続けてきた結果であると思っています。それと同時にVP(ビジュアルプレゼンテーション)の強化も図られ、「顧客化」が順調に進行してきたと考えています。

第1四半期の経常減益から第2四半期においては経常増益に転じたとは言え、当社の収益力や成長性を更に強化していかなければならないと考えております。そして改善・改革をし続けて年間の業績達成ならびに新たな成長を目指してまいりたいと考えております。

Q.2 今後の方針ならびに下半期の施策 についてお聞かせください。

●主力事業の最強化 ●都心、モール型出店強化 ●新事業の着実な育成、拡大

国内市場の成長が不透明な環境の中、また新設SC(ショッピングセンター)が増えない環境下におきましては、競争環境はより寡占化された環境になっていくものと思います。こうした中で、収益性の向上と成長性を確保していくには、この3つの施策が重要であると考えます。

「主力事業の最強化」については、改めてアパレル事業のギャルフィット部門のドメイン商品の強化ならびにそのための販促やVPを強化してまいります。雑貨事業のシーベレット部門は順調に収益力の向上が進んでおりますが、顧客を基点に新たなMD(マーチャンダイジング)にチャレンジをし続けることにより、更なる収益力の向上と出店拡大を目指してまいります。

「都心、モール型出店強化」ならびに「新事業の着実な育成、拡大」におきましては、今後も対象ブランドのブランド力の強化を図り、出店拡大をしてまいります。この出店拡大こそが当社の成長性につながるものと考えます。

上半期における出店は 期初年間計画の40店舗に対し

て24店舗と予定通り進行いたしました。都心、モール型SC立地にアパレル事業として「DOSCH」「RecHerie」「Re-J」「Visalia」を、雑貨事業として「illusie300」を積極的に出店しました。その中でバラエティ雑貨の300円均一ショップである「illusie300」は生活雑貨中心のMD変更ならびにVPの変更等によりまして新設店ならびに既存店が好調に推移し、デベロッパーからの依頼も多く出店が加速いたしました。また、「DOSCH」におきましては出店拡大したのと同時にブランド力の向上が図られ、既存店の売上も上昇傾向となっております。

当社は「多核化ブランド戦略」による安定成長を目指しております。そしてアパレル事業の8ブランドならびに雑貨事業の4ブランドの各々が収益性と成長性を兼ね備えたものになることを目指してまいります。アパレル事業における「Li Meduo」や、雑貨事業における「INCENSE」の売上効率も上昇傾向にあります。新規事業の「木糸土」と含めて全ブランドの育成、拡大を目指してまいります。

最後に、平成24年2月21日に株式会社鈴木と合併いたします。これを機に新たな成長企業を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き倍旧のご支援ご厚情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

●当第2四半期累計期間の業績の状況

	(単位:%)
売上高前年同期比	90.6
経常利益前年同期比	58.9
既存店売上高前年同期比	89.8
売上総利益率(前年同期比増減)	△0.3
営業費売上比率(前年同期比増減)	+1.8

●当第2四半期累計期間の部門別の状況

	売上高	単純前年同期比	既存店前年同期比
ギャルフィット	8,900	87.9	85.4
ライムストーン	680	80.8	89.4
ピサリア	185	90.5	64.3
アパレル事業合計	9,767	87.6	85.4
シーベレット	3,595	100.0	101.6
インセンス	590	89.5	99.4
木糸土	133	105.2	99.8
雑貨事業合計	4,319	98.6	101.2

●ギャルフィット部門



DOSCH 広島アジグラ店

Recherie
少し大人で上品な着こなしを目指す女性へ、スイートでエレガントなコーディネート提案します

DOSCH
個性的な着こなしで遊び心あるスタイルを提案するショップ

GAL FIT
トレンドからベーシックまでの等身大のスタイリングを提案するショップ

アパレル事業の主力であるギャルフィット部門は、当社の収益母体であります。期中における主な出店は「DOSCH」が6店舗、「RecHerie」が2店舗、そして「GAL FIT」が2店舗でありました。今後も「DOSCH」ならびに「RecHerie」の販促ならびにブランド力の強化により都心、モール型SCへの出店拡大を図ってまいります。

リジェイ・ジニー



Re-J 大和鶴間イオンモール店

Re-J
trend of Jinnee
トレンドカジュアルからエレガンスまでの大きいサイズショップ

Jinnee
トレンドカジュアルからベーシックまでの大きいサイズショップ

大きいサイズを展開する「Re-J」ならびに「Jinnee」は、期中に「Re-J」を3店舗出店し、当第2四半期末の単独店舗数は47店舗となりました。営業サービス力の強化とともに顧客化が順調に進行しています。また、品揃えの拡大により40坪程度が適正坪数となっており、今後もこれを基本に出店拡大をしてまいります。

●ライムストーン部門



Li Meduo 前橋げやきウォーク店

Li Meduo
トレンドを意識した大人のデイリースタイルを提案するショップ

LIME STONE
働く女性のワードローブを提案するショップ

ライムストーン部門は、都心、モール型ショッピングブランドであります「Li Meduo」を展開しております。「Li Meduo」は25～35歳のキャリア層を対象に、質感に拘った上質な着こなしを提案するブランドとしてMD力の向上が図られ、今後は出店による拡大も目指してまいります。

●ビスاليا部門



Visalia 渋谷109店

Visalia
V.V.P.
いつでもかわいくおしゃれでありたい女の子にトレンド感を取り入れたSWEET MIX STYLEを提案します

「Visalia」は、前期に渋谷109店で立ち上げたブランドであり、期中2店舗出店し、当第2四半期末店舗数は4店舗となりました。店舗の拡大とともにオリジナル商品を拡大しブランド力強化を図ってまいりました。今後は都心のブランドに合った立地に限定して出店拡大してまいります。

●シーベレット部門



Siebelet 清水ペイドリーム店

Siebelet
毎日を楽しませる、トータル提案型雑貨ショップです
親子で、ワクワク楽しく過ごせる空間を提案します

雑貨事業の主力であるシーベレット部門は主力商品の強化により既存店売上が好調に伸張し、収益力が強化されました。バラエティ雑貨「Siebelet」の期中の出店は1店舗です。オリジナルキャラクターの「ピンポンママ」も好調に推移しており、バラエティ雑貨としての独自性の強化を更に図り出店拡大してまいります。

イルーシー300



illusie300 佐久平イオン店

illusie300
インテリア、キッチンなど様々な遊び心あふれる雑貨を300円のワンプライスで提案するショップ

「illusie300」は、期中の出店が7店舗であり、当第2四半期末店舗数は22店舗となりました。生活雑貨を中心とした300円均一ショップであり、出店依頼も多く、今後も早期に出店拡大することを目指してまいります。そして規模拡大による商品力の強化を図り、更に独自性ある品揃えを目指してまいります。

●インセンス部門



INCENSE 浜北プレ葉ウォーク店

INCENSE
WITH COMPLETE GOODS
レディース、メンズ、トラベル関連のバッグを品揃えする専門店

「INCENSE」は、レディース、メンズの服飾雑貨ならびにトラベルケースまで、バッグとその関連商品をトータル提案しております。独自性ある主力商品の構築とその強化により、既存店売上也好調に推移しております。この商品の更なる強化により今後は認知度の向上とともに出店拡大を図ってまいります。

●木糸土部門



木糸土 あべのキューズモール店

木糸土
mokushido
木、糸、土の自然素材の良さを提案する雑貨ショップ

「木糸土」は、期中の出店が1店舗であり、当第2四半期末店舗数は4店舗となりました。既存店は好調に推移しており、ネット通販も開始し、今後は更なる顧客化ならびに認知度の向上を図ってまいります。更には、ブランドのコンセプトに合った大人カジュアルのアパレルとの複合店舗の開発も予定してまいります。

●スクラップ&ビルドの状況

都心、モール型SCへ出店拡大

当第2四半期累計期間は、「都心、モール型出店強化」に注力し、期中24店舗の出店の内、都心、モール型SCに21店舗出店いたしました。また、既存店舗活性化のための増床ならびに改装につきましては10店舗実施しており、この内、増床が2店舗、業態転換が2店舗でした。

店舗投資額は307百万円、新規出店1店舗あたりの投資額は12百万円となりました。今後もキャッシュ・フローに留意しながら都心、モール型SCを中心にに出店していく予定です。

●ブランド別出退店の状況

「illusie300」「DOSCH」の出店拡大

前期、新たに都心型ブランドの「Visalia」ならびにモール型ブランドの「RecHerie」を開発しており、期中着実にその店舗数を増やしております。

ブランド別に出店数の多いのは、「illusie300」7店舗、「DOSCH」6店舗ですが、その他におきましてもバランスに留意して出店しております。

また、中小型のSC立地においては出店の競争環境が緩和しており、今後も対象ブランドにて出店をしていく予定です。

●ブランドリスト

	都市型	モール型	GMS型
アパレル事業(8)	 		

●スクラップ&ビルドの状況

	前第2四半期	前期年間	当第2四半期	年間見通し
出 店	22店舗	38店舗	24店舗	40店舗
退 店	18店舗	35店舗	18店舗	20店舗
純 増	4店舗	3店舗	6店舗	20店舗
期 末 店 舗	577店舗	576店舗	582店舗	596店舗
店 舗 投 資 額	355百万円	670百万円	307百万円	800百万円

●ブランド別出退店の状況

	出店	退店	業態転換	純増(△減)	当第2四半期末店舗数
ギャルフィット部門	13	3	2	12	339
RecHerie	2	0	1	3	5
DOSCH	6	0	2	8	36
Re-J・Jinnee	3	0	1	4	47
GAL FIT 他	2	3	△2	△3	251
ライムストーン部門	0	2	△1	△3	27
Li Meduo	0	0	△1	△1	10
LIME STONE 他	0	2	0	△2	17
ピサリア部門	2	0	0	2	4
アパレル事業合計	15	5	1	11	370
シーベレット部門	8	3	0	5	132
illusie300	7	0	0	7	22
Siebelet 他	1	3	0	△2	110
インセンス部門	0	3	0	△3	28
木糸土部門	1	1	0	0	4
雑貨事業合計	9	7	0	2	164
複合店	0	6	△1	△7	48

四半期貸借対照表

	当第2四半期 会計期間末 (平成23年8月20日現在)	前第2四半期 会計期間末 (平成22年8月20日現在)	前事業年度 (平成22年2月21日から 平成23年2月20日まで)
■資産の部			
流 動 資 産	5,188	5,043	5,009
固 定 資 産	7,493	7,870	7,533
有形固定資産	1,338	1,493	1,266
無形固定資産	55	58	56
投資その他の資産	6,099	6,318	6,210
資 産 合 計	12,681	12,913	12,542
■負債の部			
① 流 動 負 債	5,343	5,679	5,421
① 固 定 負 債	1,495	1,121	1,113
負 債 合 計	6,838	6,801	6,534
■純資産の部			
株 主 資 本	5,843	6,112	6,008
資 本 金	1,229	1,229	1,229
資 本 剰 余 金	1,203	1,203	1,203
利 益 剰 余 金	3,417	3,687	3,583
自 己 株 式	△7	△7	△7
純 資 産 合 計	5,843	6,112	6,008
負債及び純資産合計	12,681	12,913	12,542

POINT

- ① 資産除去債務会計基準の適用により、流動負債の資産除去債務が6百万円、固定負債の資産除去債務が3億84百万円計上されました。
- ② 売上総利益率は、震災による休業店舗の商品評価の低下等により前第2四半期累計期間の53.5%から53.2%へ0.3%低下しました。しかしながら第2四半期(6~8月)は、前年同期比+1.3%の53.3%となりました。
- ③ 特別損失は、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額として3億42百万円、災害による損失として91百万円等の計上により、5億22百万円となりました。
- ④ 税引前四半期純利益は黒字となったものの、住民税均等割等の負担が大きくなり、これにより法人税等が1億60百万円計上された結果、四半期純利益は四半期純損失1億14百万円となりました。
- ⑤ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益の減少および決算日が金融機関の休日であったことに伴う売上預け金の増加等により、△4億90百万円となりました。

四半期損益計算書

	当第2四半期累計期間 (平成23年2月21日から 平成23年8月20日まで)	前第2四半期累計期間 (平成22年2月21日から 平成22年8月20日まで)	前事業年度 (平成22年2月21日から 平成23年2月20日まで)
売上高	14,259	15,743	29,902
売上原価	6,669	7,317	13,919
② 売上総利益	7,589	8,425	15,982
販売費及び一般管理費	7,044	7,495	14,813
営業利益	545	929	1,168
営業外収益	33	44	69
営業外費用	13	15	26
経常利益	564	959	1,212
特別利益	4	13	16
③ 特別損失	522	207	419
④ 税引前四半期(当期)純利益	46	764	809
法人税、住民税及び事業税	135	243	381
法人税等調整額	25	164	139
④ 四半期(当期)純利益又は純損失(△)	△114	356	288

四半期キャッシュ・フロー計算書

	当第2四半期累計期間 (平成23年2月21日から 平成23年8月20日まで)	前第2四半期累計期間 (平成22年2月21日から 平成22年8月20日まで)
⑤ 営業活動によるキャッシュ・フロー	△490	882
投資活動によるキャッシュ・フロー	△56	△41
財務活動によるキャッシュ・フロー	149	△536
現金及び現金同等物の増減額	△397	304
現金及び現金同等物の期首残高	730	315
現金及び現金同等物の四半期末残高	333	620

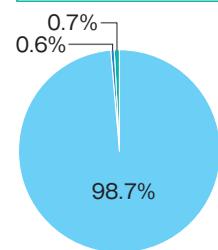
● 株式情報 (2011年8月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	7,260,000株
単元株式数	100株
株主数	2,907名

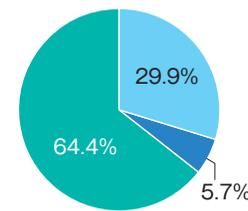
● 大株主 (2011年8月20日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ユニー株式会社	4,599	63.35
野村信託銀行株式会社(投信口)	310	4.27
パレモ従業員持株会	208	2.87
個人株主A	170	2.34
個人株主B	66	0.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	52	0.72
サンラリー株式会社	50	0.68
株式会社SBI証券	29	0.41
個人株主C	27	0.37
個人株主D	26	0.36

● 株主構成 (2011年8月20日現在)



株主数構成比	株主数	構成比
個人株主その他	2,869名	98.7%
証券会社・金融機関	18名	0.6%
その他国内法人	20名	0.7%
外国法人・個人	0名	0.0%
合計	2,907名	100.0%



株式数構成比	株式数	構成比
個人株主その他	2,171,856株	29.9%
証券会社・金融機関	412,844株	5.7%
その他国内法人	4,675,300株	64.4%
外国法人・個人	0株	0.0%
合計	7,260,000株	100.0%

● 株主メモ

事業年度 毎年2月21日から翌年2月20日まで
 定時株主総会 毎年5月開催
 基準日 定時株主総会 毎年2月20日
 期末配当金 毎年2月20日
 中間配当金 毎年8月20日
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10号 住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 ☎ 0120-176-417
 公告方法 電子公告により行ないます。
<http://www.palemo.co.jp/>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。
 証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほぶり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

● 株主優待

株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様に対し、下記のとおり株主様ご優待品を進呈いたしております。



300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		5,000円相当の果物

● 会社概要 (2011年8月20日現在)

社名 株式会社 パレモ
 設立 昭和59年11月22日
 資本金 12億2,925万円
 本社所在地 〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
 事業所 パレモ東京 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14番4号
 岡谷ビル3・4階
 パレモ大阪事務所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目7番19号
 第7新大阪ビル 8階
 従業員数 2,747名
 (ナショナル社員145名、エリア社員他2,602名)
 事業内容 レディースアパレル、バラエティ雑貨、バッグの専門店チェーン
 ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

● 役員 (2011年8月20日現在)

代表取締役社長 小田 保 則
 専務取締役 松 井 理 記
 常務取締役 永 井 隆 司
 取締役 江里口 直
 取締役 稲 垣 孝 志
 取締役 岩 田 泰 治
 取締役 吉 田 裕 紀
 取締役 加 納 昭 義
 常勤監査役 黛 龍 二
 監査役 宮 井 眞 一
 監査役 中 村 弘

注:取締役のうち、加納昭義氏は社外取締役であります。
 監査役のうち、宮井眞一、中村弘の両氏は社外監査役であります。

● 沿革

1984年 11月 株式会社パレモ 設立(資本金1億円)
 1985年 2月 株式会社パレモとして営業開始
 1985年 7月 路面1号店 ギャルフィット原宿店オープン
 1987年 3月 東京営業本部開設
 1988年 8月 POSシステムの導入
 1992年 2月 増資 資本金2億円へ
 1995年 2月 増資 資本金2億6,750万円へ
 1996年 2月 額面株式を5万円から50円へ変更
 1998年 2月 シーベレット事業を営業譲受
 増資 資本金2億8,145万円へ
 2000年 8月 本社を愛知県稲沢市(現在地)へ移転
 2000年 8月 佐川物流サービス株式会社と物流業務委託契約を締結
 2001年 2月 全店舗PC導入により情報ネットワーク構築
 2001年 8月 大阪本部開設
 2002年 2月 PB商品の本格展開開始
 2002年 8月 第一貨物株式会社と物流業務委託契約を締結
 2003年 8月 日本証券業協会に株式を店頭登録
 2004年 7月 公募増資 資本金を12億2,925万円へ
 2004年 8月 新POSシステムを導入
 2004年 9月 全国47都道府県に出店
 2004年 12月 日本証券業協会への店頭登録を取り消し
 ジャスダック証券取引所に株式を上場
 2005年 8月 インセンス事業を営業譲受
 2006年 11月 木糸土1号店 小田急新宿ミロードにオープン
 2006年 12月 リメディオ1号店 モレラ岐阜店にオープン
 2007年 4月 ドスチ1号店 アピタ千秋店にオープン
 2007年 11月 新メンバーズ制度導入
 2008年 1月 巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司設立
 2008年 6月 中国1号店 上海久光百貨店にオープン
 2008年 6月 イルーシー300 1号店 サンテラス一宮店にオープン
 2009年 1月 パレモ大阪事務所移転
 2009年 6月 巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司売却
 2010年 2月 ビサリア1号店 渋谷109店にオープン
 2010年 4月 大阪証券取引所JASDAQ市場に株式を上場
 2010年 10月 大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
 2010年 10月 リシェリエ1号店 ESTA札幌店にオープン